

鄰國相望、鷄犬之聲相聞、民至老死、不相往來、

攷異 右は大體道藏玉弼本を鈔録したのであるが、たゞ使民復結繩の民字は藏本人に作つてゐるが、唐人の改めた所と推定されるから河上本に従つて改めた。河上本には使有什伯之器の句之字の上に人字があつて什伯で句を切つて鷄犬を鷄狗に作つてゐる。傳奕本と范應元本とは使有什伯の有字の上に民字があり、甘其食の句上、至治之極民各の六字あつて、安其居、樂其俗の二句を安其俗樂其業に作り、相聞の下に使字がある。此章に於て「」内に挿んだ部分はその語と意味が重複するから、恐らく古い注本が本文に誤入したのであらう。又史記貨殖傳に老聃の言を引いて

至治之極、鄰國相望、鷄狗之聲相聞、民各甘其食、美其服、安其俗、樂其業、至老死不相往來、

とあつて、此章下半と略同じであるが、史記ではこれだけで完全な語をなしてゐて、此章前半は後半を敷衍したらしくも見える。恐らく此章に於て古い部分は後半のみであらう。然し又莊子の胠篋篇には此章「甘其食乃至不相往來」の句があつて之を老子の語としてゐない。従つて此章が老聃であることは餘程疑問とせなければならぬ。然し今此章について大略を解

すれば次の如くであらう。

此章は老莊派の理想の社會を描寫したものである。什伯之器は説文繫傳伯字の下に老子の語を引いて什伯の器は兵革の屬だと注してゐる。什伯の器を兵器だとするのは古兵卒の部曲を呼ぶに五人を伍となし、十人を什となし、百人を伯となし、又軍旅を呼ぶに或は什伍といひ、或は什伯といふから、什伯の器は兵器と解せられるのである。道家の理想的の社會は小國で人民も少なく兵器はあつても戦はず、生命を大切に於て舟車はあつても之によつて遠方に出ることなく、民に各其衣服に甘んじ、其職業を樂しんで、國と國とが鄰接して鄰の國の鷄や犬の音が聞える位近くても一生涯往來もせね様な社會である。

第八十一章

信言不美、美言不信、善者不辯、辯者不善、知者不博、博者不知、
聖人不積、既以爲人、己愈有、既以與人、己愈多、
天之道利而不害、聖人之道爲而不爭、

【改題】(一) 傅奕本善者辯者の兩者字言に作る。愈樾は信言美言の兩言字を者字の誤だといふ。其説は河上公注に本づくのであるが、聖語藏本の河上注によると、河上公本も原來言に作つて者に作らぬ事となる。

(二) 魏策に老子の語を引いて「老子曰聖人無積、盡以爲人、己愈有、盡以與人、己愈多」とあるは此節と同じで、既に盡の意である。

此章河上公本には顯賢章と題して一章としてゐるが、連絡なき三節があつまつてゐるものであらう。(一)の中にも二句づゝ三語を區別され得る。其意は解釋を用ゐないで自ら明かであらう。

道德經 下卷 終

昭和十五年九月十八日印刷
昭和十五年九月二十一日發行

改造文庫 第一部 第百八十二篇

老子の研究(下)

定價四十錢

著者 武内義雄

發行者 山本三生

東京市芝區新橋七丁目十二番地

印刷者 久家恒衛

東京市神田區錦町二丁目五番地

東京市芝區新橋七丁目十二番地

發兌 改造社

振替口座東京八四〇二番

電話芝(43) 四三二一 番番番番

- 此の文庫は、内容嚴選と最低の廉價とを以て第一義とし、専ら大衆普及を目的として刊行す
- 此の文庫に收容するものは、東西古今百載の書に亙り、校訂、註釋、翻譯、總て典據たるべきを期す
- 此の文庫は、社會、經濟、政治、哲學、思想、歴史、文學、藝術、美術等百載に及ぶ
- 表紙意匠中、1は十錢を、2は二十錢を、3は三十錢を示す。以下之に倣ふ
- 定價及び送料左の如し

表紙背の符號	1	2	3	4	5	6	7	8
定價(錢)	10	20	30	40	50	60	70	80
送料(錢)	三	六	六	六	九	九	二	二

797
324

最新刊書目

古事記傳第二册	本居宣長著 風卷景次郎校註	6	新萬葉集略解(一)	橋本千蔭著 森本健吉校註	6	現代語源氏物語第四册	窪田空穂譯	5	拾遺愚草(二)	藤原定家著 佐佐木信綱校註	5	宇治拾遺物語(下)	中島悅治校註	6	老子的研究(上)序說	武内義雄著	5	老子的研究(下)道徳經析義	武内義雄著	4	改訂哲學概論	桑木嚴翼著	5	科學概論	J・トムソン著 内山賢次譯	5	人間の美的教育について	フリードリヒ・シラー著 島村教次譯	4
戦争と平和第一册	トルストイ著 梅田寛譯	8	悪魔の酒(下)	エ・テ・ア・ホフマン著 濱野修譯	5	二重の誤解他數篇	フロスベリ・メリノー著 江口清譯	4	モーパッサン戯曲集	平野威馬雄譯	4	ボオドレエル傳	セシエ、ベルトオ共著 齋藤磯雄譯	5	サー・ロージヤ物語	ア・テイスン、ステイル共著 清見利彦譯	3	アメリカ文學史要	ヴァン・ドールン著 中柴光泰譯	3	精神科學の論理	J・S・ミル著 松浦孝作譯	5	通貨調節論(下)	J・フライトン著 阿野季房譯	5	國民經濟學體系(上)	フリードリヒ・リスト著 谷口吉彦・正木一夫共譯	6

